

# 二人を追加採用

ドイツへ一人と台湾から一人

横浜善光寺留学僧育英会は平成五年度留学僧として、ドイツのキール大学に留学の佐藤誠司氏（東北大学大学院博士課程）と、台湾から東京大学人文科学研究科に外国人研究生（印度哲学・印度文学専攻）として留学した董燕燕さんの二人を追加採用した。これにより留学僧は世界十四カ国・一地域に四十七人を派遣または受け入れたことになる。今回の追加採用で派遣国はアメリカ、タイ、インド、スリランカ、イギリス、フランス、イタリア、オランダ、韓国、

カンボジア、ドイツの十一カ国、受け入れ国はアメリカ、スリランカ、韓国、中国、フランス、バングラデシュ、日本、台湾の七カ国・一地域に及ぶ。

## 貴重な民間の育英制度

「広く世界に活眼を開く人材養成」を掲げたこの育英事業は毎年留学僧の海外派遣と受け入れを行なっていて、今年、創立十周年を迎える。一カ寺の事業としてはかつてない破天荒な活動

として国内外から注目されており、ことに日本で仏教を学ぶ外国人留学僧にとつて、仏教精神に基づく貴重な民間の育英制度となつている。

同育英会は、住職である黒田理事長が善光寺檀信徒に毎食一口だけ節約する「一口運動」を提唱し、喜捨された浄財により基本的に運営されている。その他にも、目的に賛同する篤志家も現われており、最近も日本有数の倉庫業会社社長が亡妻の供養として多額の寄付を行なつた。

追加採用された佐藤氏は東北大学文学部を卒業後、同大学院文学研究科博士課程（印度学仏教史学専攻）に入学し、前期二年を修了して現在の後期三年に在学中。ネパール仏教の研究では世界の先端をいくドイツでの基礎研究を志し、キール大学のベルンハルト・ケルヴァー教授のもとでネパールの仏教史及び他宗教との関わりを中心に研究するため渡独した。

また、台湾の董さん（女性）は輔仁大学外国

語学院日本語科を卒業後、さらに仏光山叢林学院専修部で学び、卒業。同学院講師、国際学部日本語クラスの教務担任を経て、東京大学の大学院外国人研究生として日本に留学した。

提出論文のテーマは、佐藤氏は「国際貢献のより所とは何か」、董さんは「世界平和と仏教徒の請願」であつた。（中外日報より）

七月二十六日、育英会辞令が佐藤誠司氏と董燕燕さんに、東北大学名誉教授・宝仙学園短期大学学長・文学博士の塚本啓祥先生より、安藤義則先生立会いのもと手渡され、両氏とも感無量の面持であつた。終わって塚本先生の講演があり、感慨も一入であつた。